



## 自校の実態把握

マトリックス表から見てきたこと

### 【強み】

- ・低学年から ICT を活用している。(児童)
- ・「ゆさぶり」の明確化。(教師)

### 【弱み】

- ・学力が二極化しており、学習への意欲・必要感が低い児童がいる。(児童)
- ・共通実践の曖昧さ。(教師)

## 育成をめざす資質・能力

リーディングスキル 学びに向かう力 情報活用能力

## 研究主題(副題)

伝えたい, 聴きたい, 高めたい子 ~リーディングスキルを高めて情報活用へ~

### 学校研究の重点(授業づくり)

- 題意の的確な把握と確かな見通し!
- 「ゆさぶり」で学習を活性化!
- ふり返りで学習過程や思考過程を意識化!

#### ★具体的な方策

- ・「問われていること」「分からないこと」などを確認し、全員を学びのスタートラインに立たせる。(メタ認知)
- ・フォーマットをもとに、授業を活性化させるための「ゆさぶり」を考えて授業に臨む。また、授業の後に有効だった「ゆさぶり」を週案に記録する。
- ・自らの課題に対して、本時の学習を振り返る場を設け、「分かったこと」「考えが深まったこと」などの観点で表現させる。(メタ認知)

### 学校研究の重点(基盤づくり)

- プログラミング学習の充実!
- 語彙力の向上!
- 支持的学級風土の醸成!

#### ★具体的な方策

- ・プログラミング学習を積極的に取り入れ、論理的思考力を伸ばす。
- ・帯タイムで、NIE、速読テスト、リーディングスキルテスト、辞書引きなどを計画的に実施する。
- ・互いの良さを認め合う「きらきらカード」への取組を継続する。

## 共通実践につなげるためのモニタリングとアシスト

- 学期に2回、視点を明確にした「相互授業参観」を行う。(ブロック研)
- 週に1回、「ゆさぶり」についてふり返り、有効性について検討する。(ブロック研⇒全体)
- 月に1度の「ロードマップチーム会議」で進捗状況を確認したり、取組の有効性を検討したりする。

## 方策の有効性を検証する方法

- 「相互授業参観シート」から、児童の姿として取組の効果が表れているかを見取る。
- 各種学力テスト、単元テスト、リーディングスキルテスト、メタ認知測定尺度などの結果を分析し、次の方策に活かす。
- 児童・教師アンケート(年4回)を実施し、組織的な共有ができていないかを検証する。